

(113) 栃木県塩原郡の男鹿鉾山

参考文献(1)を手引きに探査を行った。60年以上前の報告書である。男鹿鉾山には、4カ所の鉾床がある。大正鉾床、金沢鉾床、田代鉾床、闇沢鉾床である。現在、現地はどのようになっているのであろうか？ 未知のものに対する期待を持ちながら、なかなか現地を確認できず、結局、5回の探査を行った。結果として、幾つかの坑口跡を確認することができた。大正鉾床と金沢鉾床である。文献(1)の鉾山図との対応も良好である。しかし、未だ、全体を探査できたわけではない。が、一応、探査の成果があったとして、報告書としてまとめることとした。

本鉾山は塩谷郡にあり、田代山(標高1099.8m)の山麓にある。鬼怒川温泉からは、121号で、川治温泉を經由し、五十里ダムを横目に見て、中三依地区へと入って行く。中三依温泉駅から、約2kmで、平沢にかかっている短い橋に達する。ここで左折し、林道に入っていく。左折箇所を見失って、121号を行き過ぎると、道路の上を、会津鬼怒川鉄道が跨いでいる。少し戻ることになる。

林道は広い空き地で行き止まりとなっている。ここに車をおける。空き地の先、平沢の右岸に、一応、道が沢に平行にのびているが、直ぐに沢に入って消えている。後は沢を遡っていく。大正鉾手前名では、沢はなだらかで広く歩きやすい。

なを、この鉾山の主要鉾は、硫化鉄鉾、銅鉾である。

探査日 2012年3、4月

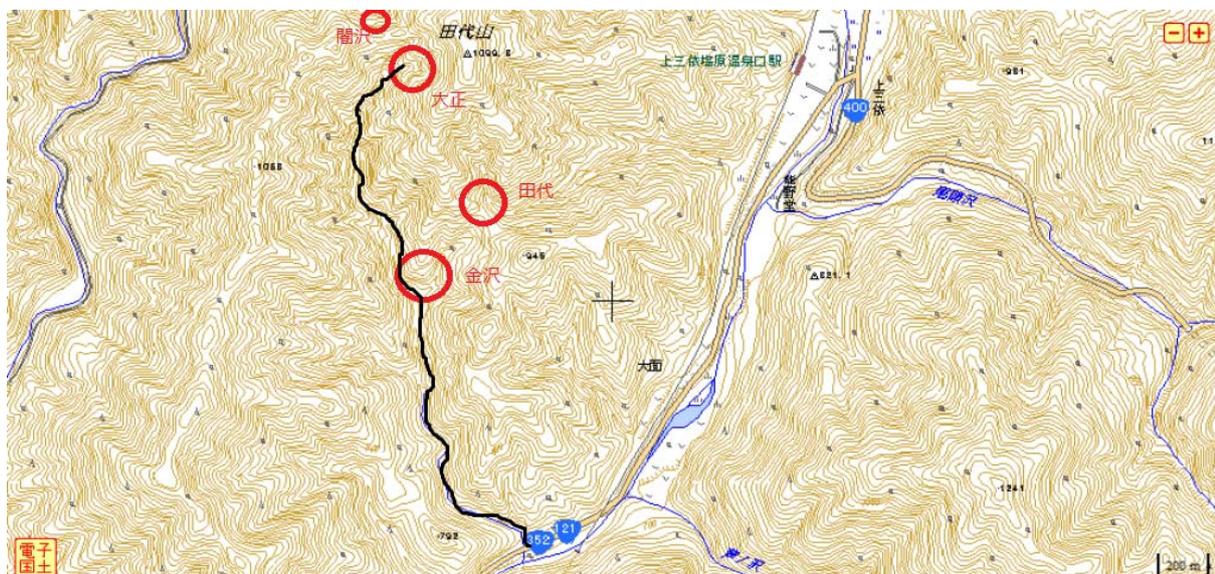


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。図中の赤丸円と、その脇の文字は参考文献(1)の鉾山図に記されている4つの鉾床の大凡の位置と名前である。黒線は探査ルート。

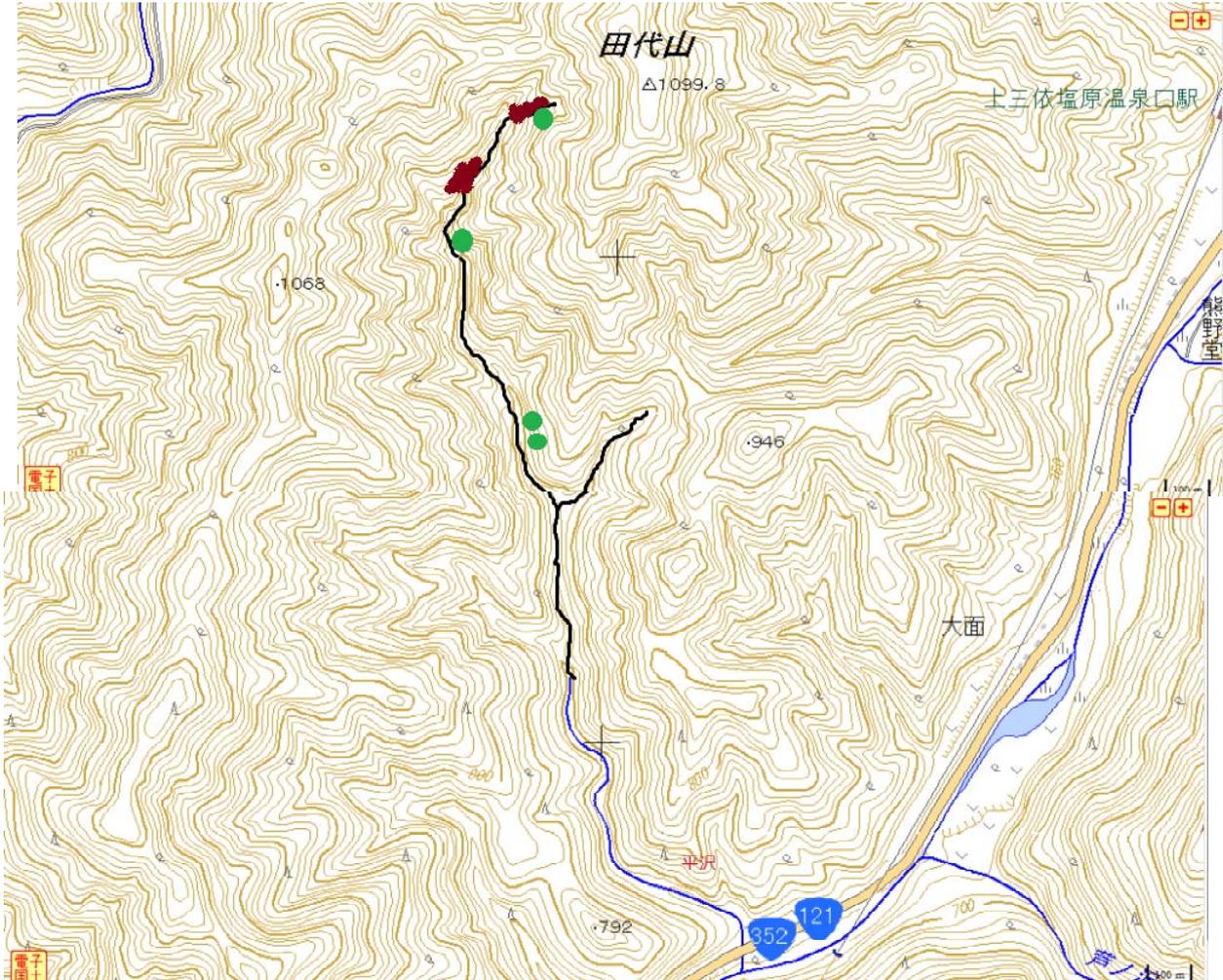


図2 図1の部分拡大図。金沢鉱床付近に2つの坑口跡。田代鉱床には1つの坑口跡。この坑口跡下の沢は、ズリが豊富であった。が、この坑口跡への道は消滅しており、巻き道を取るか、急な沢登りが必要となる。急沢は登るのが用意でも、下りは手こずる。また、滑り落ちる危険もある。探査を安全に行うためには、下り用に、ロープが必須である。

鉱山跡写真



写真1 352号(121号)を上三依に向かって進んできた。平沢の所である。手前は、平沢にかかっている短い橋である。道路の遠方先では、会津鬼怒川線が、道路をまたいでいる。ここで、平沢に沿っている、左側の林道へ入って行く。車の通れる林道は先で終了し、そこは大きな広場となっている。



写真2 平沢の左岸にあった坑口の1つ。



写真3 沢の岩に、人工的な階段を見つけた。大正鉱区への道であったのであろう。



写真4 平沢の右岸にあった、選鉱場跡と思われる平坦地。沢側はズリとなっている。が、めぼしい標本はほとんど無かった。が、ここまでに、沢に幾つかの鉱染状の転石を核にはしている。



写真5 大正鉱区の坑口を目指して、少し急な沢を登りあがった。沢の左岸上部に坑口跡を確認した。写真の中央少し上の黒い筋部分である。



写真6 この沢底に、太い角材を多数用いたような人工的な跡を見つけた。周りには、転石鉱物が一杯である。

採集鉱物写真



写真7 転石鉱物の1つ。軟弱化した花崗岩中に、黄鉄鉱の微晶が一杯である。とにかく脆い。写真だけ採集。

参考文献

(1)「栃木県塩谷郡三依・塩原地区地下資源調査報告」、梅本悟、郷原範造、地質調査所 鉱物資源資料 NO. 2210、調査年1953年。

付記 金沢鉱床にある坑口跡を確認するために、その付近の沢の探査を行ったが、未だ確認できていない。沢にも転石を確認できていない。少し不安なのは、現在の地形図と、文献(1)中の金沢鉱床付近の鉱山図が、等高線の分布の仕方、及び沢の位置などが微妙に異なっている点である。

文献(1)に依れば、田代鉱区は大正鉱区と道で連絡しており、田代鉱区の鉱石は、簡易鉄索で大正鉱区の選鉱場に出したようである。